

# 岡山市事業系一般廃棄物 組成分析調査報告書

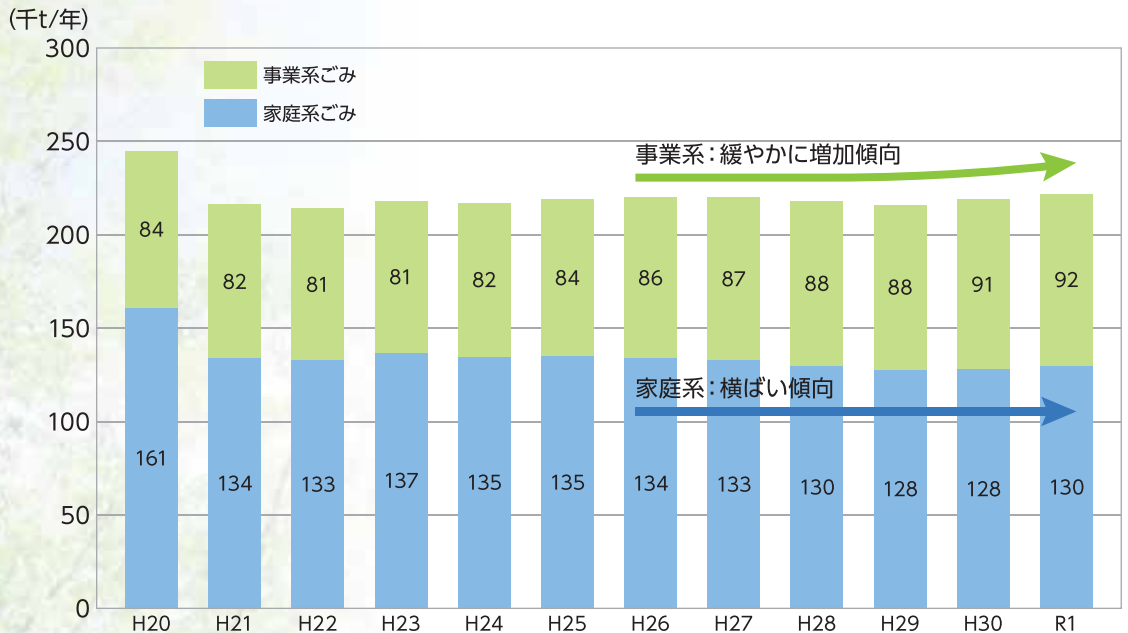
[概要版]



岡山市イメージキャラクター  
「ミコロ」「ハコロ」

## 1 調査の目的

岡山市では、家庭系ごみは横ばい傾向ですが、事業系ごみは緩やかに増加傾向にあります。本調査は、事業系ごみの組成分析調査を通じて、本市の事業系ごみの種類別の排出状況や特徴を把握して、事業系ごみの減量化施策に反映することを目的としています。



## 2 調査方法

調査は、東部クリーンセンターで試料を採取して、採取した試料を表-1に示す分類ごとに仕分けをして、重量と体積を計量しました。



試料採取状況



試料分類状況

試料の分類項目を表-1に示します。試料は、約36種類に分別して、重量と体積を計量しています。

表-1 分類項目

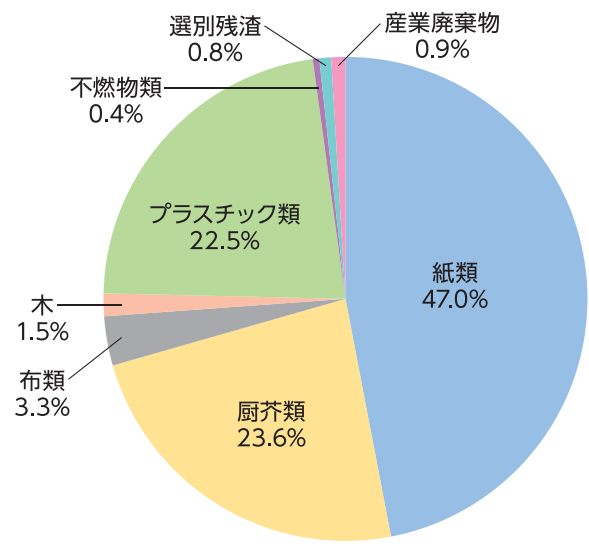
No.	大分類	中分類	小分類	具体例
1	紙類	飲料用紙パック(アルミ不使用)	飲料用紙パック(アルミ不使用)	—
2		ダンボール	ダンボール	—
3		新聞紙・チラシ	新聞紙・チラシ	—
4		書籍・雑誌類	書籍・雑誌類	—
5		雑紙	紙箱類、包装紙	菓子箱、石けん箱、紙袋
6		OA用紙	OA用紙	OA用紙、シュレッダーくず
7		減量化できない紙	紙おむつ以外	飲料パック(アルミ使用)・汚れた紙・紙コップ・紙皿・感熱紙・ティッシュペーパー・アルミはく
8		紙おむつ	紙おむつ	—
9	厨芥類	食品類	手付かずの食品	手付かずの食品で原形があるもの
			食べ残し	調理後の食べ残し
			調理くず(可食部分)	使い残した食材など
			調理くず(不可食部分)	魚の骨、卵の殻など
10	食品以外	食品以外の厨芥類	コーヒー、ティーバッグ、お茶がら	
11	布類	衣類	衣類	Tシャツ、和服、下着、作業服
12		衣類以外	布類	シーツ、糸、小物
13	木	剪定枝、草	剪定枝、草	—
14		その他	木製品	木箱、割り箸、鉛筆
15	プラスチック類	ペットボトル	減量化可能なペットボトル	飲料用、調味料
			減量化不可能なペットボトル	リサイクルマークのないもの、たばこ、油等が混入したもの
16		レジ袋	レジ袋	—
17		発泡トレイ	減量化可能なトレイ	食品トレイなど
			減量化不可能なトレイ	汚れのひどいもの
18		発泡スチロール	発泡スチロール	—
19		その他プラスチック製容器包装	その他プラスチック製容器包装	シャンプー容器、化粧品容器等
20		容器包装以外のプラスチック類	容器包装以外のプラスチック類	(製品)プラスチック製品
21		ゴム・皮革類	ゴム・皮革類	合成樹脂製品、皮革類、長靴等
22		その他	上記以外で分別不能なもの	—
23	不燃物類	金属類	スチール缶	飲料缶、菓子缶、缶詰缶
24			アルミ缶	—
25			スプレー缶	—
26			その他金属類	—
27		ガラス類	リターナブルびん	ビールびん、一升瓶、牛乳びん、コーラびん
			ワンウェイびん	調味料のびん、インスタントコーヒーのびん、ドリンク剤のびん、化粧品のびん
			その他ガラス類	耐熱ガラス、ガラスコップ
30		その他	陶磁器類	植木鉢、茶碗
			小型家電製品	コード類含む
			乾電池	ボタン電池含む
			リチウムイオン電池	充電式電池、バッテリーなど
34		その他不燃物	上記以外のもの	水銀入り体温計、電球、蛍光灯など
35		選別残渣	選別残渣	ほこり、髪の毛、爪、砂など
36		産業廃棄物	産業廃棄物	—

※減量化：市焼却施設への排出抑制を減量化効果と定義した。

# 3 調査の目的

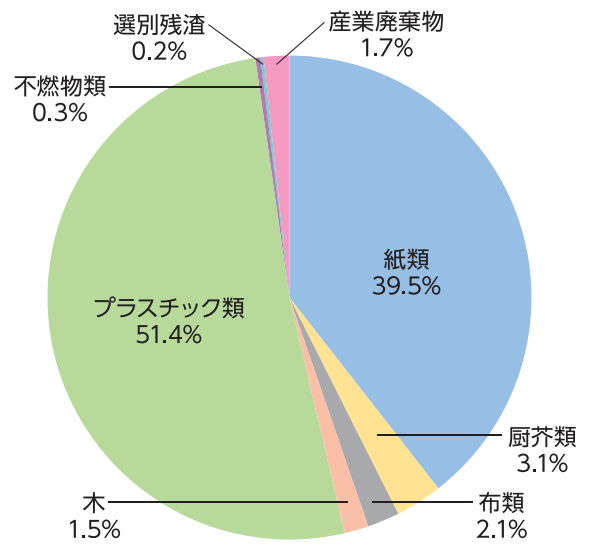
## 1 重量割合

重量割合が大きい品目は、紙類47.0%、厨芥類23.6%、プラスチック類22.5%であり、この3品目で全体の93.1%を占めています。



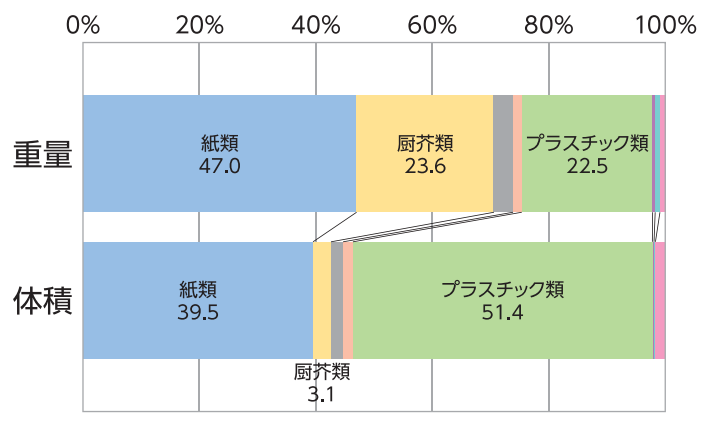
## 2 体積割合

体積比で割合が大きい品目は、紙類39.5%、プラスチック類51.4%であり、この2品目で全体の90.9%を占めています。



## 3 重量と体積の比較

厨芥類は重量比23.6%から体積比3.1%と大きく占める割合が減少し、プラスチック類は重量比22.5%から体積比51.4%と大きく増加しています。



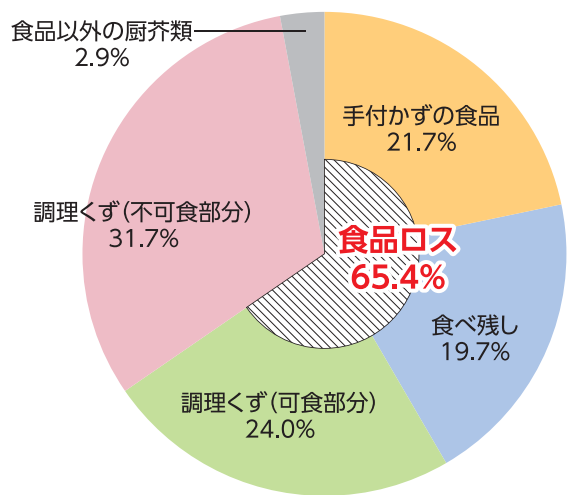


# 4 考察

## 1 厨芥類に含まれる食品ロスの割合

厨芥類に含まれる食品ロスの割合は65.4%です。その内訳は、手付かずの食品21.7%、食べ残し19.7%、調理くず24.0%です。

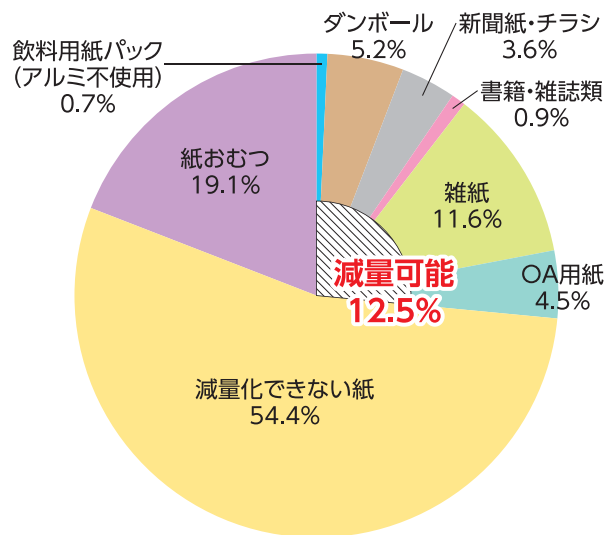
事業者や消費者の少しの工夫で減量化が可能となります。



## 2 紙類の内訳

紙類の約12.5%は減量可能な紙です。また、54.4%の減量できない紙の多くは、汚れ等の付着によるものです。

排出時に分別を徹底することによって、減量が可能となる可能性があります。



## 3 減量化可能量

紙類と厨芥類の1/2~1/3程度を減量させた場合、排出量全体の18~24%が減量化可能と想定されます。

対象	項目	紙類	厨芥類	計
減量化可能		6~8%	11~15%	18~24%

